

難防除雑草のエゾノギシギシ、スギナ混生ほ場では除草剤 体系処理で有効に防除できる（南相馬市）

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター

事業名 営農再開支援事業

小事業名 営農再開に向けた作付・飼養実証

研究課題名 除草剤散布時期による難防除雑草に対する防除効果（南相馬市）

担当者 小椋智文、佐藤優平

I 新技術の解説

1 要旨

難防除雑草である多年生のエゾノギシギシ、スギナは営農再開前の防除が必須である。エゾノギシギシにはグリホサートカリウム塩液剤〔ラウンドアップマックスロード〕、スギナには冬期の塩素酸塩粒剤〔クロレート S〕が有効とされている。そこで両種が混生している休耕地において、冬期にグリホサートカリウム塩液剤と塩素酸塩粒剤の体系処理を行ったところ、エゾノギシギシ、スギナを有効に防除できた。

- (1) 試験はエゾノギシギシ、スギナが混生している休耕期間中の畑地で実施した。処理前はエゾノギシギシはまだ茎葉が残っており、スギナは地上部が枯れていた。
- (2) グリホサートカリウム塩液剤を 2021 年 12 月下旬に使用量 10a 当たり 1,000mL・散布液量 10a 当たり 50L（少量散布）を雑草茎葉散布、塩素酸塩粒剤を 2022 年 1 月中旬～3 月下旬に 10a 当たり 40kg を全面土壌散布した（表）。
- (3) 2022 年 6 月までエゾノギシギシ、スギナを有効に防除し、塩素酸塩粒剤の推奨散布時期（11～3 月）の内、年明け後の散布時期による効果の変動はなかった（図 1、2）。

2 期待される効果

- (1) 難防除雑草を営農再開前に防除しておくことで、円滑な営農再開が期待できる。

3 活用上の留意点

- (1) 塩素酸塩粒剤は散布時や散布後に強い降雨があると効果が劣りやすくなるため、なるべく晴天が続く日に散布する。塩素酸塩粒剤 3 月上旬区は散布 2 週間後に 2 日間で 42mm（最大 5mm/h）の降雨があり、除草効果が低下した可能性がある（図 2）。
- (2) 購入費用はグリホサートカリウム塩液剤〔商品名：ラウンドアップマックスロード〕約 2,000 円/10a、塩素酸塩粒剤〔商品名：クロレート S〕約 20,000 円/10a である。

II 具体的データ等

表 除草剤処理時期

区名	2021年12月	2022年1月	2月	3月
除草剤無				
塩素酸塩粒剤1月中旬		R	C	
塩素酸塩粒剤2月上旬		R	C	
塩素酸塩粒剤3月上旬		R		C
塩素酸塩粒剤3月下旬		R		C

R：グリホサートカリウム塩液剤〔ラウンドアップマックスロード〕散布

C：塩素酸塩粒剤〔クロレートS〕散布

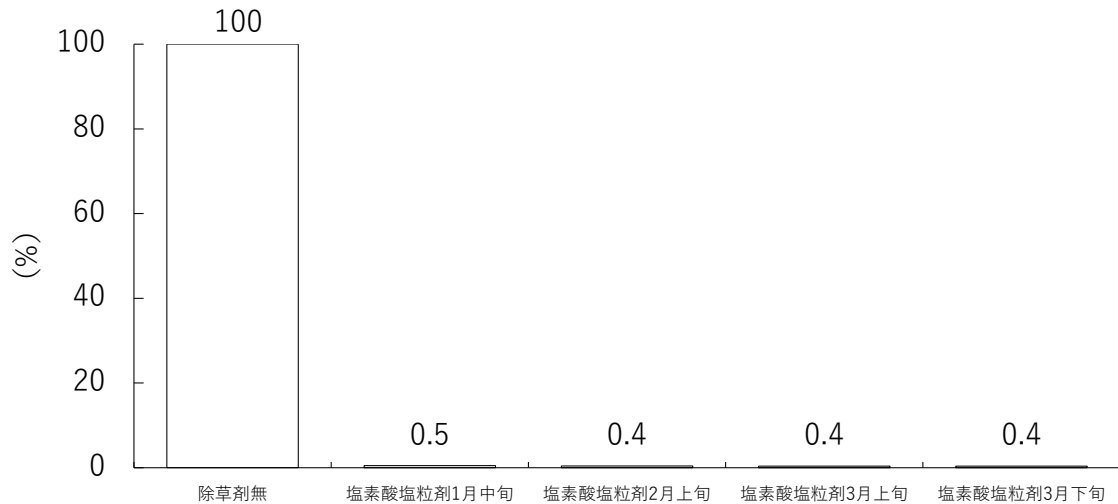


図1 エゾノギシギシ生体重比¹⁾ (2022年6月15日)

1) 除草剤無区のエゾノギシギシ生体重2498.3 g/m²を100%としたときの各処理区の比率。

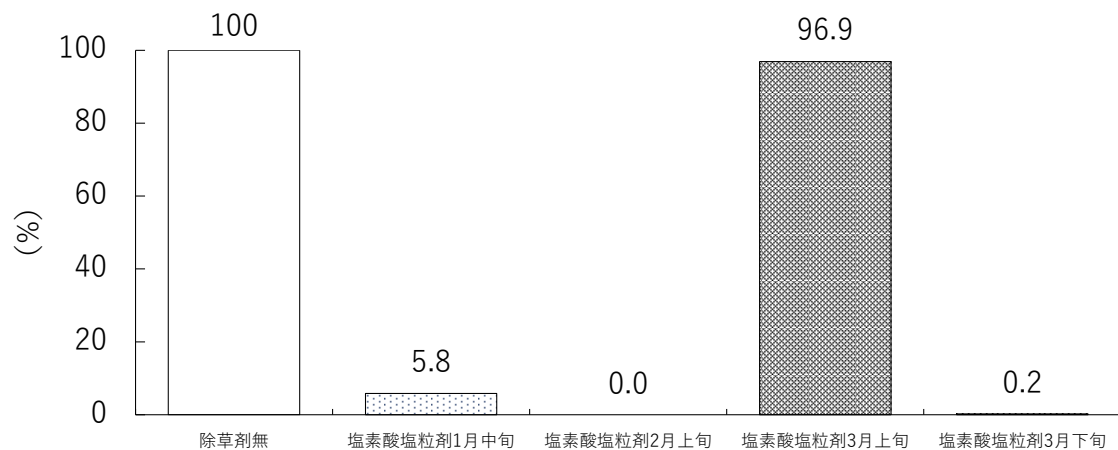


図2 スギナ生体重比¹⁾ (2022年6月15日)

1) 除草剤無区のスギナ生体重252.8g/m²を100%としたときの各処理区の比率。

2) 散布後の降雨により除草効果が低下した可能性あり。

III その他

1 執筆者

小椋智文

2 実施期間

令和4年度

3 主な参考文献・資料

- (1) 除染後畑地のスギナ防除対策 (国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 2021年3月)
- (2) 令和3年度営農再開実証技術情報 保全管理期間中の冬期にクロレートSを散布すると翌春のスギナの発生を抑えられる (南相馬市)